

第9節 特筆すべき動物

第1項 オオタカ・ハイタカ

1-1 調査日時及び調査内容

調査は表3-9-1に示したとおり、平成23年4月及び平成24年1月から3月にかけて毎月1回実施した。

表3-9-1 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成23年4月26日	6:00～13:00	生息確認調査
第2回	平成24年1月27日	7:00～13:00	
第3回	平成24年2月24日	6:30～13:00	
第4回	平成24年3月15日	6:30～13:00	

1-2 調査地点

調査地点は図3-9-1に示したとおりであり、最終処分場工事区域を広く見渡せる2地点で実施した。

1-3 調査方法

調査は定点観察（8倍程度の双眼鏡及び25～30倍程度の望遠鏡を使用）により行い、オオタカ及びハイタカの飛翔が確認された場合は無線機を用いて調査員間で連絡を取り合い、行動をより詳細に把握することとした。

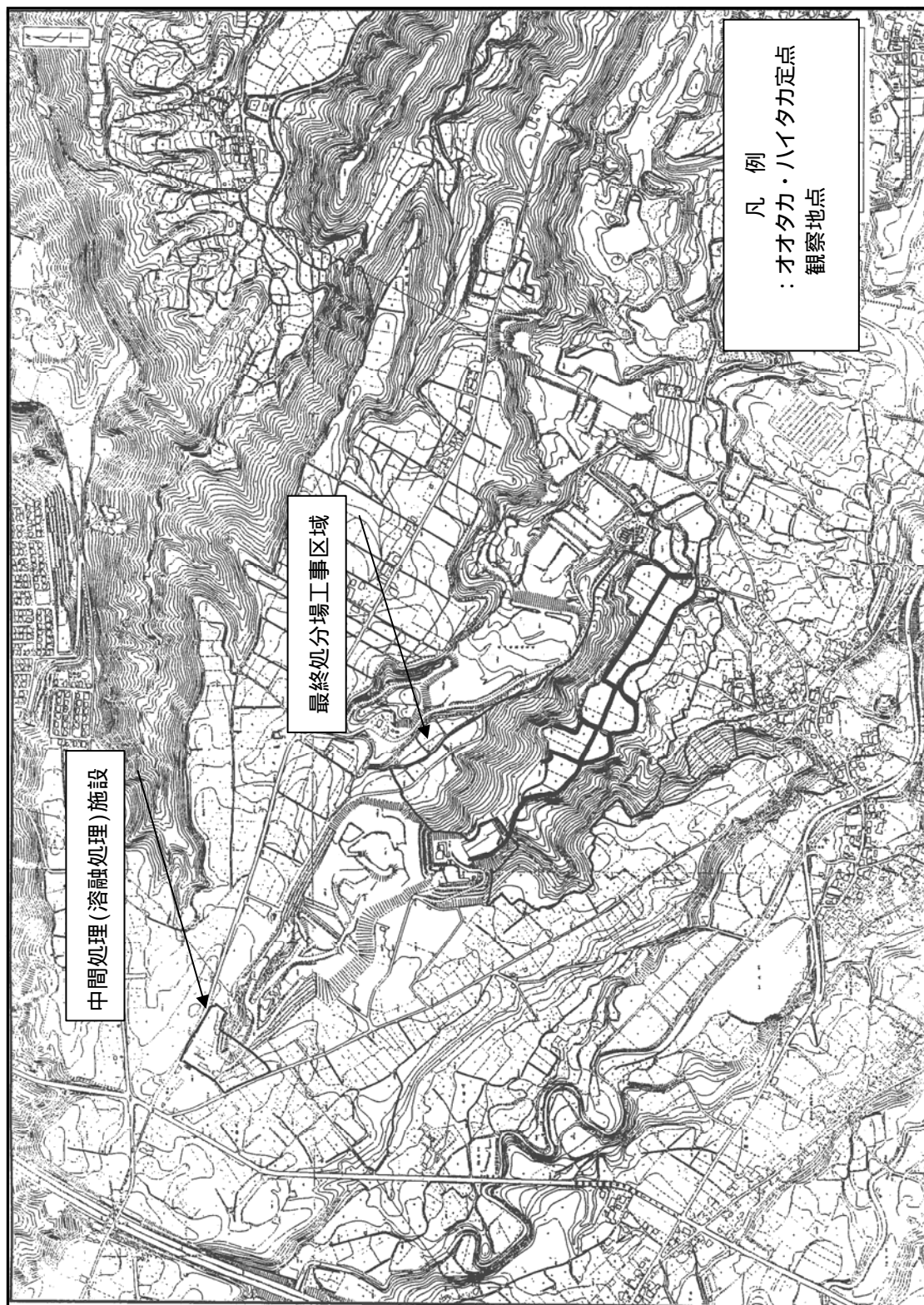


図 3 - 9 - 1 オオタカ・ハイタカ調査地点

1 - 4 調査結果

調査の結果、表 3 - 9 - 2 に示したとおり、オオタカを 1 例、ハイタカを 2 例確認した。

確認状況は、いずれも飛翔のみで、繁殖を示唆する行動（餌運び、巣材運び等）は確認できなかった。

確認位置は、図 3 - 9 - 2 に示したとおりである。

表 3 - 9 - 2 オオタカ・ハイタカ確認状況

	種名	確認年月日	確認時間	雌雄・年齢	確認状況
1	オオタカ	平成 24 年 1 月 27 日	10:15 ~ 10:16	: 成鳥	最終処分場工事区域の北西側上空でカラスに追尾されている個体を確認。旋回しながら北西方向へ飛去した。
2	ハイタカ		11:25 ~ 11:27	不明・不明	最終処分場工事区域の東側上空でカラスに追尾されている個体を確認。そのまま追尾されながら北方向へ飛去した。
3	ハイタカ	平成 24 年 2 月 24 日	11:13 ~ 11:18	不明・不明	最終処分場工事区域の東側上空で、カラスに追尾されている個体を確認。旋回しながら南方向へ飛去した。

注：表中の 図 3 - 9 - 2 の に対応する。

1 - 5 まとめ

調査の結果、調査対象としたオオタカ・ハイタカを確認した。

確認状況は、いずれも飛翔のみであり、繁殖を示唆する行動（餌運び、巣材運び等）を確認しなかったことから、最終処分場工事区域内又はその周辺での繁殖の可能性はないものと考えられる。

また、最終処分場工事区域は、建設工事が進んでおり、重機等が稼働している状況であることと、その北側に位置する四日市市南部埋立処分場をねぐらとして利用しているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺に多数生息している。

これらのことから、本地域はオオタカ、ハイタカ等の猛禽類の繁殖及び生息には適さない環境であると考えられる。

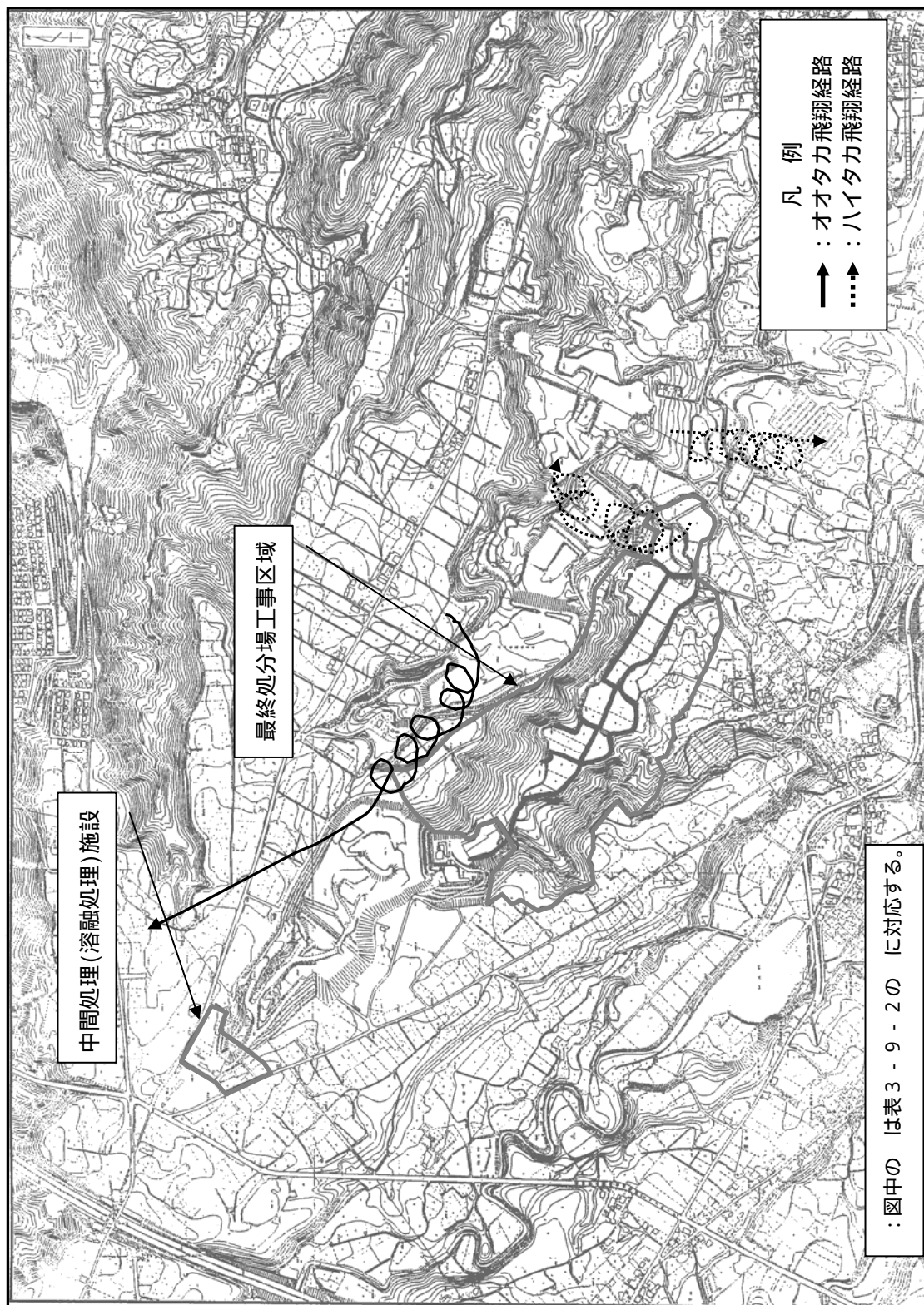


図3-9-2 オオタカ・ハイタカ確認状況

第2項 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ・サシバ等

2 - 1 調査年月日及び調査内容

調査は表3 - 9 - 3に示したとおり、渡り鳥として確認される可能性のあるサシバ等、夏鳥であるチュウサギ、サンショウクイを6月に、冬鳥であるタゲリを12月に、夜行性の種であるアオバズクを6月の夜間に実施した。

表3 - 9 - 3 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
チュウサギ サンショウクイ サシバ コチドリ コマドリ キビタキ	平成23年 6月13日	任意観察調査
タゲリ	平成23年12月28日	
アオバズク	平成23年 6月13日	

2 - 2 調査範囲

調査範囲は図3 - 9 - 3に示したとおり、最終処分場工事区域及びその周辺で実施した。

2 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

2 - 4 調査結果

調査の結果、対象とした8種(チュウサギ・サンショウクイ・サシバ・コチドリ・コマドリ・キビタキ・タゲリ・アオバズク)のいずれも生息を確認することができなかった。

2 - 5 まとめ

調査の結果、対象種のいずれの生息も確認できなかった。

最終処分場工事区域内は建設工事が進んでおり、当該地域内におけるこれらの種の生息環境は、一部の樹林性の種(コマドリ、キビタキ等)の生息環境を除き消失していることから、工事期間中は当該地域を利用できないと考えられる。また一部の樹林性の種についても樹木の伐採や重機の稼働等の間接的な影響を受け、周辺地域へ避難し生息しているものと考えられる。

しかしながら、供用後には残存緑地や最終処分場東側に整備される調整池等の水辺環境等がこれらの種の生息環境(餌場環境)の一部として利用されるものと考えられる。

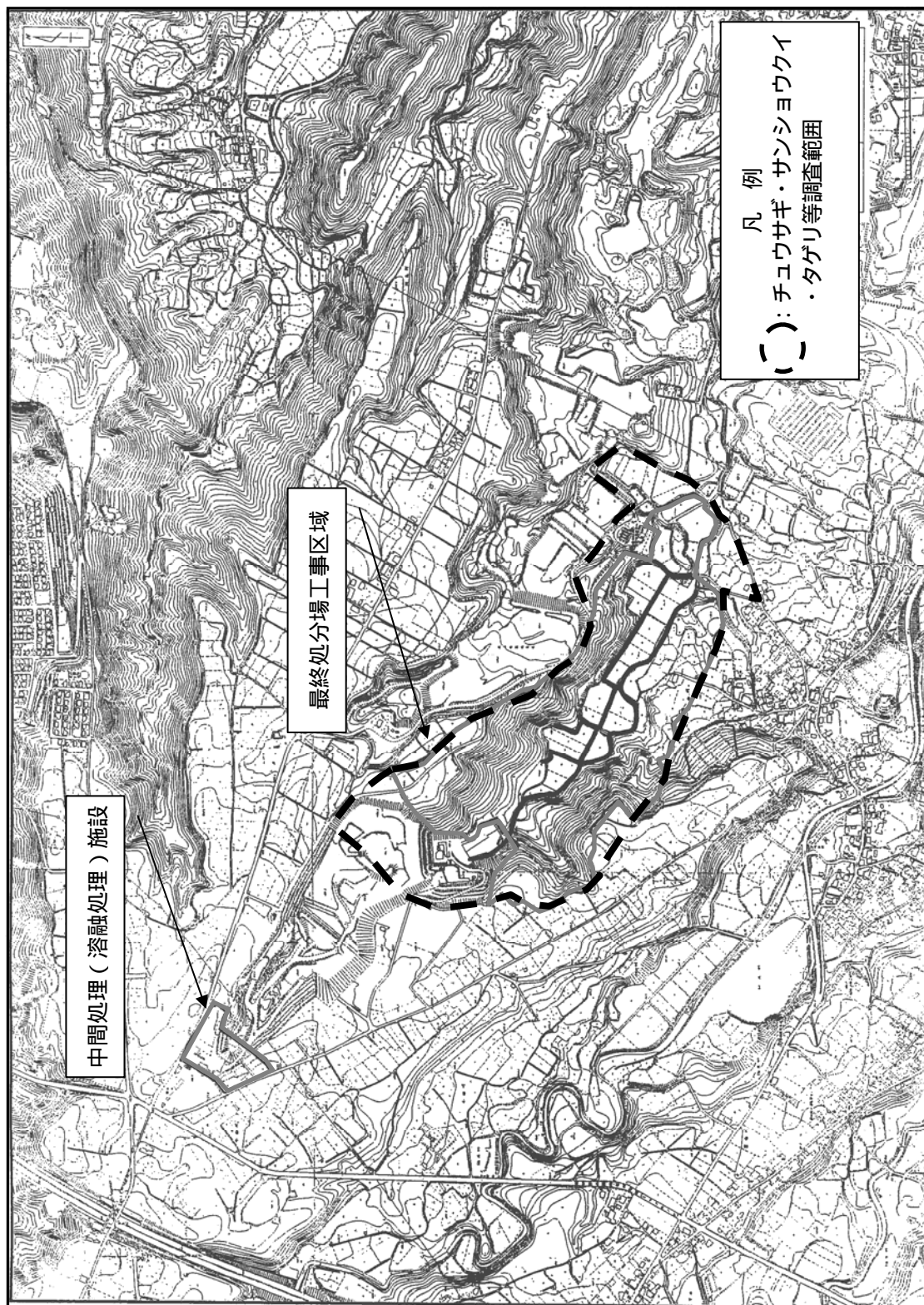


図 3 - 9 - 3 チュウサギ・サンシヨウクイ・タゲリ等調査範囲

第3項 フクロウ

3 - 1 調査日時及び調査内容

調査は表3 - 9 - 4に示したとおり、平成23年4月及び平成24年1月から3月にかけて毎月1回実施した。

表3 - 9 - 4 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成23年4月28日	17:00～21:00	生息確認調査
第2回	平成24年1月27日	17:00～21:00	
第3回	平成24年2月27日	17:00～21:00	
第4回	平成24年3月14日	17:00～21:00	

3 - 2 調査範囲

調査範囲は図3 - 9 - 4に示したとおりであり、評価書における現況調査で本種の飛翔等を確認した場所を中心にして、最終処分場工事区域内及びその周辺で実施した。

3 - 3 調査方法

調査は夜間に実施し、調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

3 - 4 調査結果

調査の結果、本種の生息は確認できなかった。

3 - 5 まとめ

調査の結果、本種は確認できなかった。

最終処分場工事区域は、建設工事が進んでおり、重機等が稼働している状況であることと、その北側に位置する四日市市南部埋立処分場をねぐらとして利用しているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺に多数生息している。

また、最終処分場工事区域及びその周辺の森林には、本種の繁殖地となる樹洞のあるような大径木はみられない。

以上のことから、本地域の繁殖地としての利用はないものと考えられる。

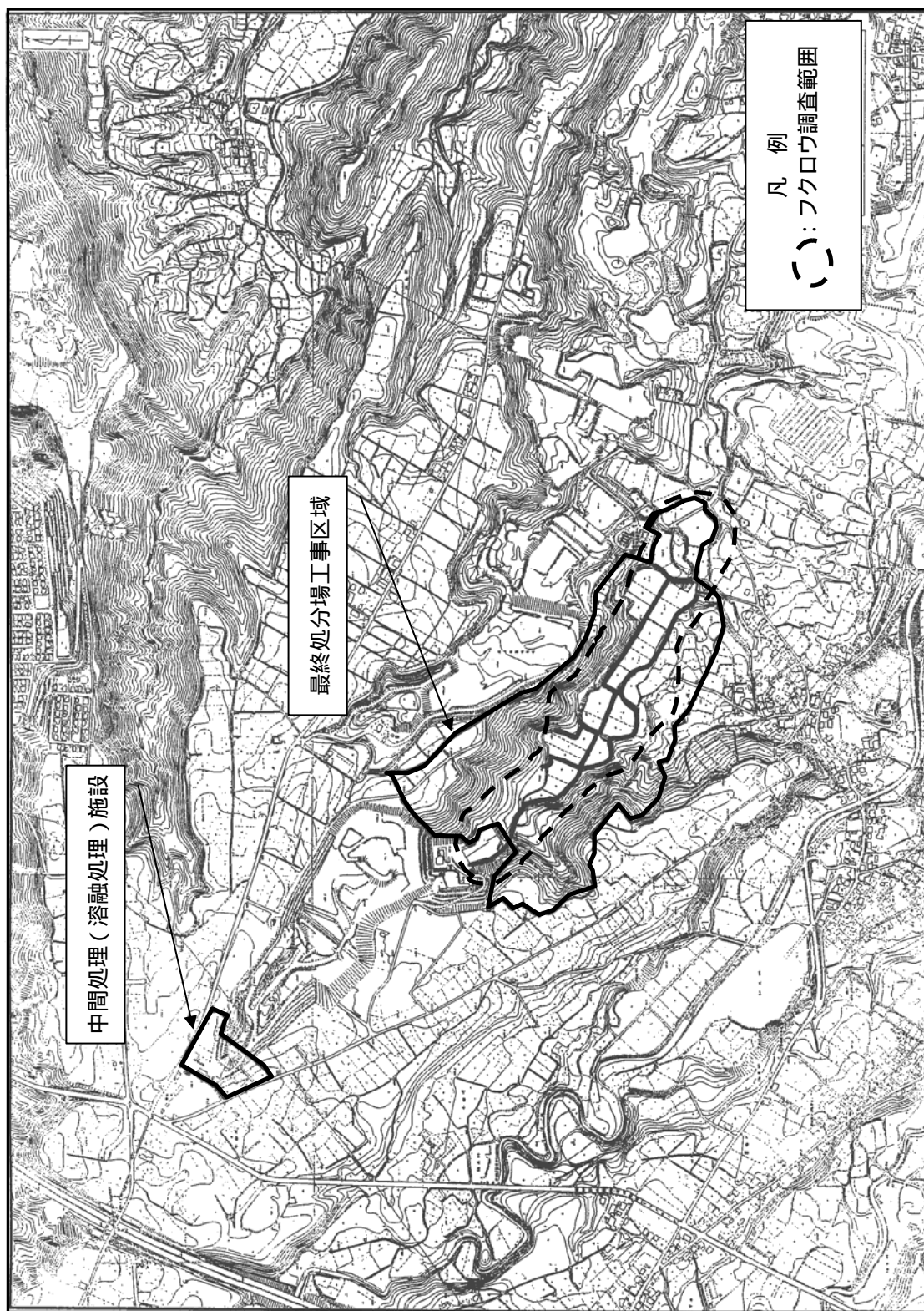


図 3 - 9 - 4 フクロウ調査範囲

第4項 アカハライモリ・ニホンイシガメ

4 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表3 - 9 - 5に示したとおりである。

表3 - 9 - 5 調査年月日及び調査内容

分類	調査対象種	調査年月日	調査内容
両生類	アカハライモリ	平成23年7月28日	生息確認調査
爬虫類	ニホンイシガメ		

4 - 2 調査範囲

調査範囲は図3 - 9 - 5に示したとおりであり、最終処分場工事区域及びその周辺で実施した。

4 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

4 - 4 調査結果

調査の結果、本種を対象とした調査では、アカハライモリ、ニホンイシガメとも生息の確認はできなかったが、5月に実施した淡水魚類調査時及び8月に実施した水生生物調査時にニホンイシガメを各1個体確認した。

確認地点は図3 - 9 - 6に示したとおりである。

4 - 5 まとめ

調査の結果、調査対象とした両生類のアカハライモリの生息は確認できなかった。

今後、最終処分場工事区域内では建設工事が進んでおり、当該地域内の生息環境は消失し、生息していた個体は一時的に周辺に退避しているものと考えられる。

最終処分場の供用後には東側に調整池等が整備され、ニホンイシガメ及び今回確認できなかったアカハライモリの生息環境が創出され、両種とも再び当該地域を生息地として利用することが可能になるものと考えられる。

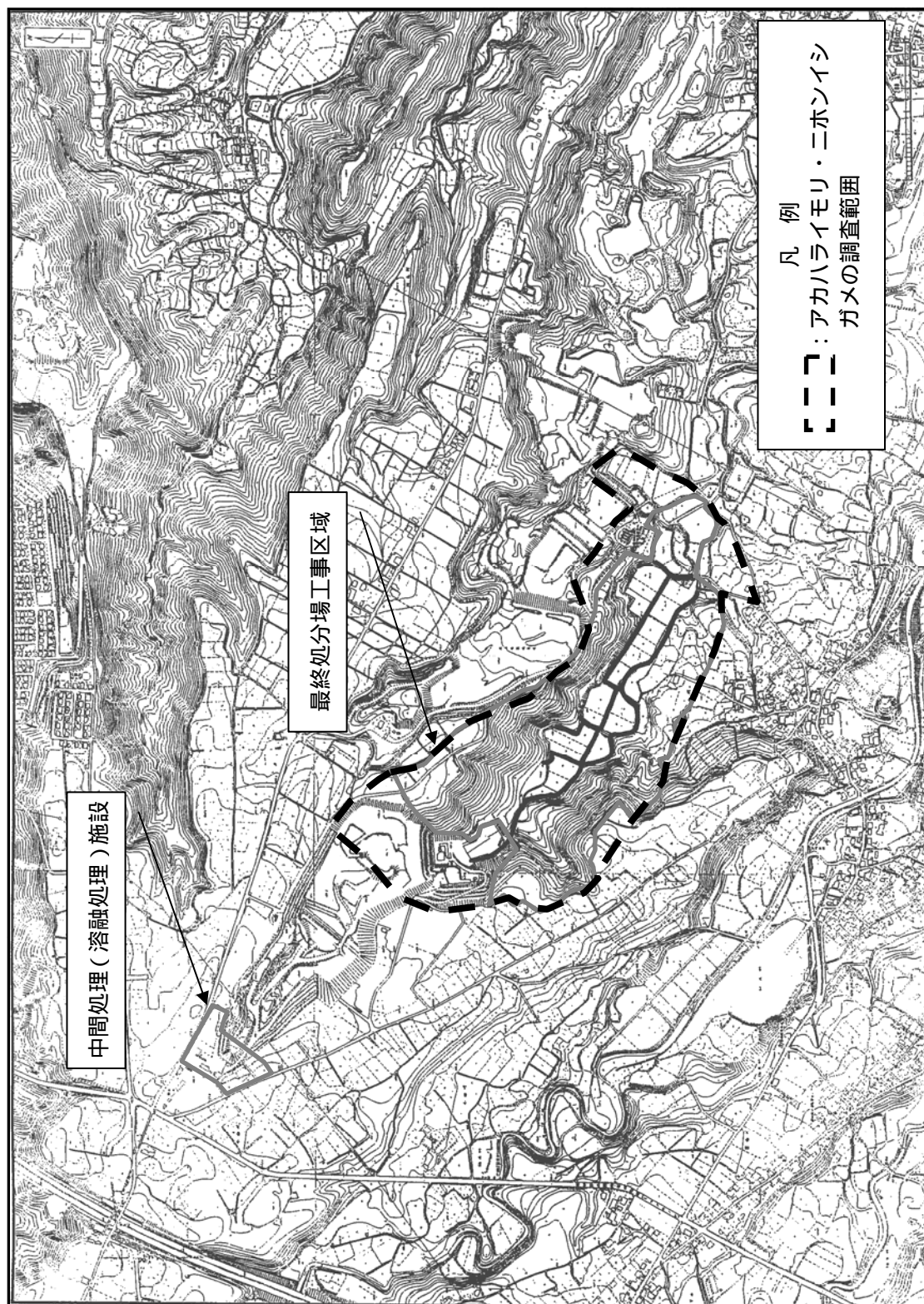


図 3 - 9 - 5 アカハライモリ・ニホンシシガメの調査範囲

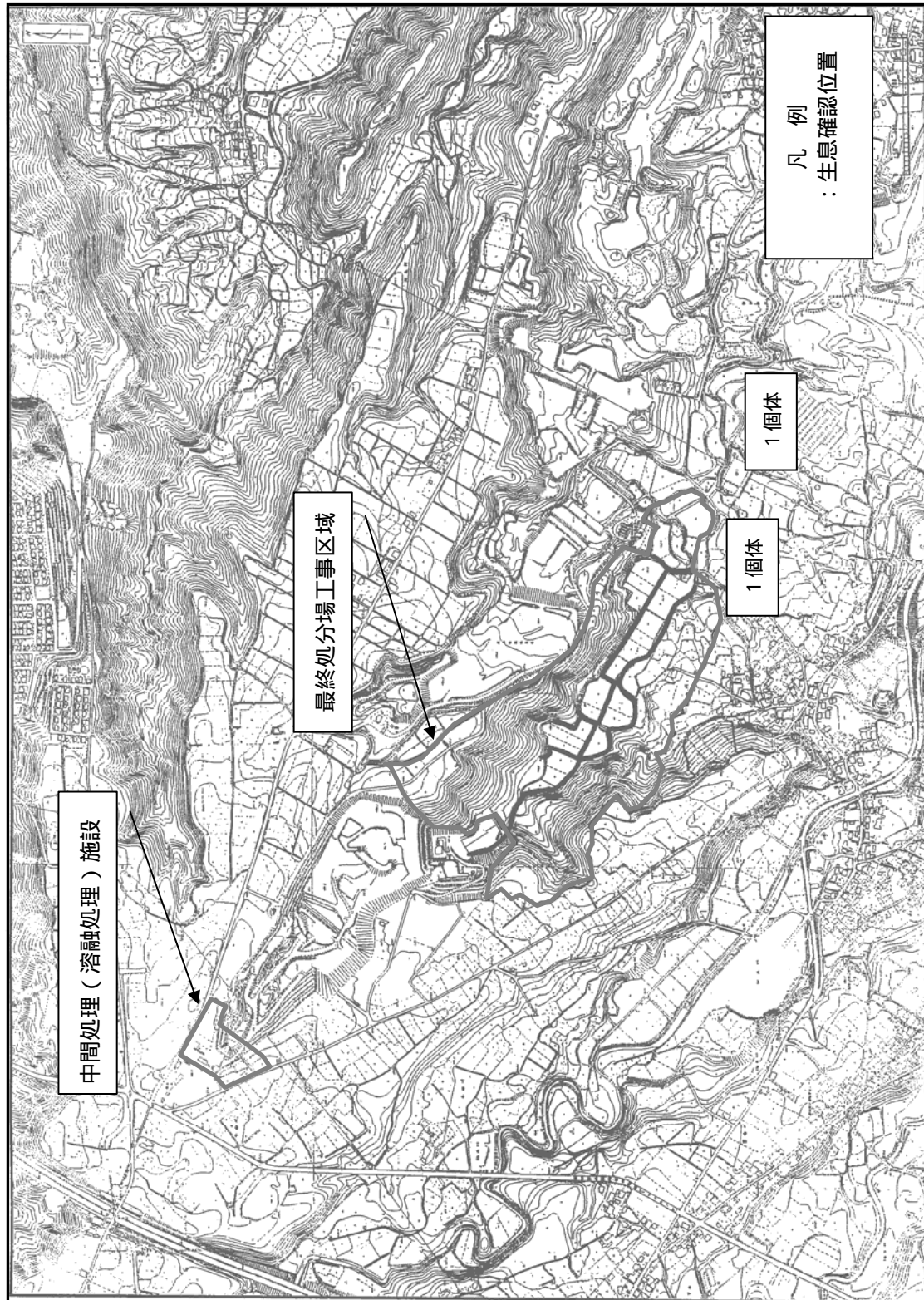


図 3 - 9 - 6 ニホンイシガメ確認位置

第5項 ムカシヤンマ・オオクワガタ・コガネグモ等

5 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表3 - 9 - 6に示したとおりである。

表3 - 9 - 6 調査年月日及び調査内容

分類	調査対象種	調査年月日	調査内容
昆虫類	ムカシヤンマ オオクワガタ ミカドガガンボ ミズアブ オオイシアブ アオメアブ	平成 23 年 7 月 28 日	生息確認調査
クモ類	コガネグモ カワベコモリグモ アシナガカニグモ		
陸産 貝類	ヒラベッコウガイ ヒメビロウドマイマイ		

5 - 2 調査範囲

調査範囲は図3 - 9 - 7に示したとおりであり、評価書における現況調査で本種を確認した場所を中心にして、最終処分場工事区域及びその周辺で実施した。

5 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

なお、クモ類については、任意観察調査の他、地上徘徊性の種を対象としたベイトトラップ（誘引餌を入れたプラスチックコップを地中に埋め、1晩放置した後、翌朝回収）による調査も実施した。

5 - 4 調査結果

調査の結果、調査対象としたムカシヤンマ等 11 種のいずれの種も生息の確認はできなかった。

5 - 5 まとめ

調査の結果、調査対象とした 11 種（ムカシヤンマ、オオクワガタ、コガネグモ、ヒラベッコウガイ等）のいずれの種も生息の確認はできなかった。

最終処分場工事区域では建設工事が進んでおり、当該地域内の生息環境は消失し、これらの個体のうち、移動能力の高い種は一時的に周辺に退避しているものと考えられる。

最終処分場の供用後には残存緑地や最終処分場東側に整備される調整池等の水辺環境等にこれらの種の生息環境が整備され、これらの種が再び当該地域を生息地として利用することが可能になるものと考えられる。

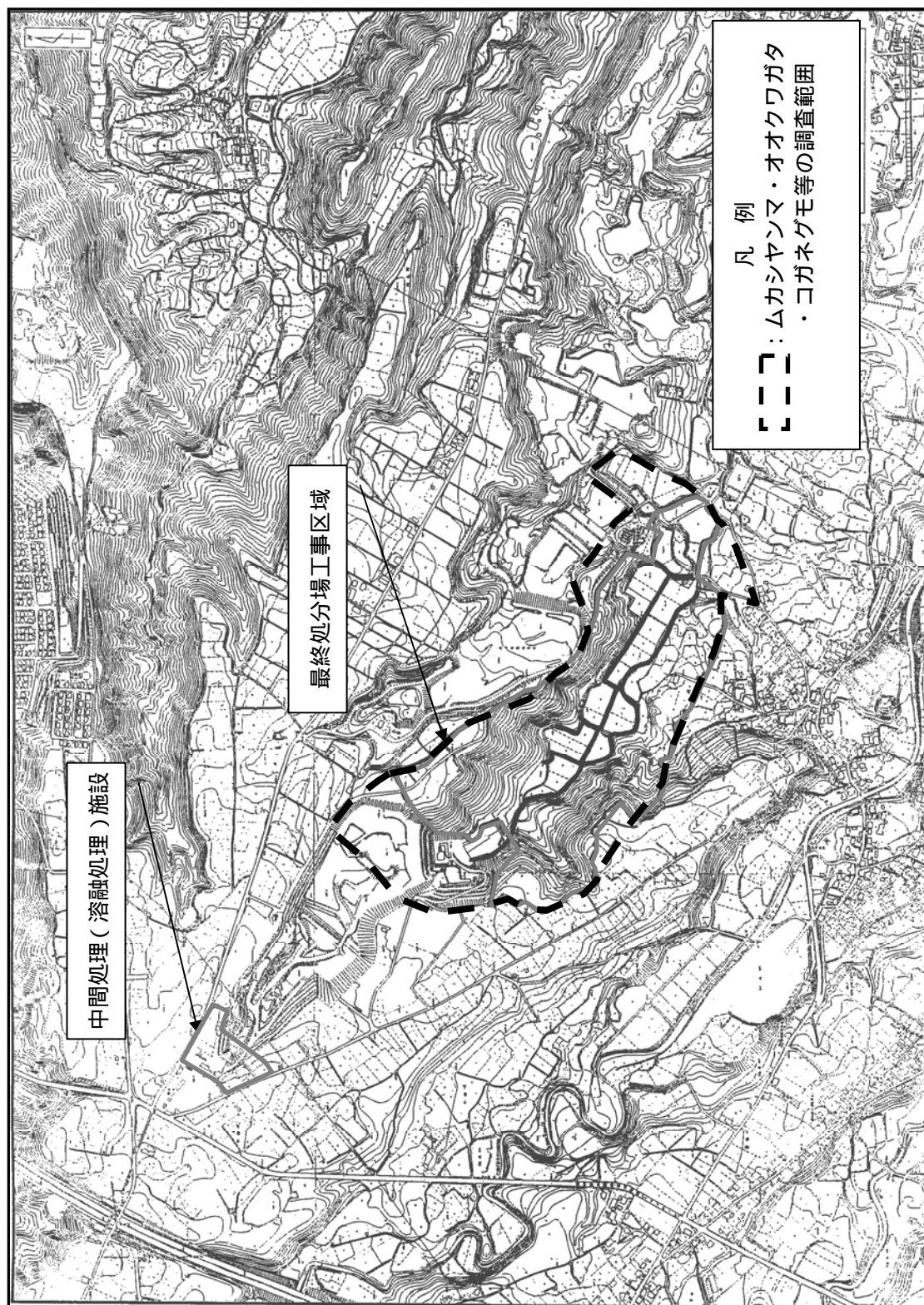


図 3 - 9 - 7 ムカシヤンマ・オオクワガタ・コガネグモ等の調査範囲